

再評価チェックリスト

1 事業概要

事業の名称	西東京都市計画道路3・4・9号線		評価該当要件	10年間継続	1回目
実施主体	東京都(建設局)	事業所管部署	道路建設部街路課		
都市計画決定(当初)	昭和42年度	事業認可年度(当初)	平成23年度	事業期間: H23年度～29年度	
都市計画決定(最新)	昭和42年度	事業認可年度(最新)	平成29年度	事業期間: H23年度～R5年度	
事業箇所	西東京市北原町三丁目～同市西原町四丁目		事業規模	評価対象区間延長	1,380m
事業概要	<p>西東京3・4・9号線は、西東京市中町四丁目(西東京3・4・16号線)を起点とし、調布保谷線と交差し、西東京市北原町二丁目(東久留米市境)に至る延長約3.4kmの都市計画道路であり、隣接する東村山3・4・11号線と接続し、埼玉県境まで続く地域幹線道路である。</p> <p>本事業は、西東京市北原町三丁目の谷戸新道から同市西原町四丁目の東久留米境までの1,380m区間について、道路を新設するものである。これにより、調布保谷線と接続する新たなネットワークが形成され、所沢街道の交通の円滑化や北原交差点の渋滞緩和が図られるとともに、地域の安全性、利便性や防災性の向上の効果が期待できる。</p>				

2 社会経済情勢等の変化(事業の必要性等に関する視点)

社会経済情勢等の変化 (認可時点から変化がある場合は変化・変更内容欄に記載)
(社会経済情勢の変化)
<p>本路線周辺の平成27年度の現況交通量は、平成22年度と比較して、横ばいとなっている。</p> <p>○現況自動車交通量【所沢街道】(道路交通センサスによる)</p> <p>平成22年度:10,340台/12h 平成27年度:9,482台/12h</p>
(関連する他事業等の進捗状況の変化)
<p>○当該区間の東側に接続する、西東京3・4・9のⅡ期区間(西東京市中町六丁目～同市北原町二丁目)が平成26年度に事業着手しており、用地を32%取得している。また、当該区間西側において、東村山3・4・11が平成6年度、東村山3・4・18が平成10年度に事業着手した。</p> <p>○東大生態調和農学機構周辺地区計画が平成27年度に告示された。</p>

3 事業の投資効果(事業の必要性等に関する視点)

定量的効果 B/C	1.7		
現在価値化総受益額(B)	145.5億円	現在価値化総費用額	84.4億円
走行時間短縮便益	130.5億円	工事費	13.1億円
走行経費減少便益	13.0億円	用地費	65.9億円
交通事故減少便益	2.0億円	維持管理費	5.4億円
定性的効果			
<交通>	<防災>		
・交通渋滞の解消	・緊急車両の走行		
・物資流動円滑化への寄与	・災害時の避難路の確保		
・バスの定時性	・延焼遮断		
・迂回交通の減少			
<景観>	<安全>		
・都市景観の向上	・交通事故の減少		
	・バリアフリー化		
	・自転車や歩行者のための空間確保		
<くらし>			
・公共施設へのアクセス向上			
・土地利用の転換・高度化			

4 事業の進捗状況(事業の必要性等に関する視点)

事業費の執行状況(R1年度末時点)			
	用地費	工事費	合計
全体事業費	5,540百万円	1,132百万円	6,672百万円
執行済額	4,796百万円	602百万円	5,398百万円
(執行率)	86.6%	53.2%	80.9%
用地取得状況(R1年度末時点)			
取得予定面積(A)	既取得面積(B)	用地取得率(B/A)	
18,601㎡	15,655㎡	84.2%	
一定期間を要した背景、地元の理解・協力の状況			
<p>・多くの地権者から事業への理解・協力を円滑に得られたが、一部権利者からの協力を得られておらず、用地折衝に時間を要している。</p>			
事業の進捗状況・残事業の内容			
<p>・すでに大部分の用地を取得しており、周辺住民の当該事業に関する理解も得られている中で、残る地権者との折衝を継続している。</p> <p>・起終点部及び用地取得箇所の街路築造工事及び電線共同溝設置工事等を行っていく。</p> <p>・「東京における自然の保護と回復に関する条例」に基づいて、環境に配慮した計画としている。</p>			

5 事業の進捗の見込みの視点

事業の実施のめど、進捗の見通し等
<p>・引き続き、用地取得を進める。</p> <p>・用地取得箇所より順次、排水施設設置工事、電線共同溝設置工事などを進める。</p>

6 コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点

コスト縮減や代替案立案等の可能性
(新工法の採用など)(事業手法、施設規模等の見直しの可能性)
<p>・一般的な街路築造工事であるため、施工にあたって、新工法等による新たなコスト縮減の可能性は極めて少ない。</p> <p>・平面の街路築造工事であり、工事も進捗していることから、事業手法、施設規模等を見直す可能性はない。</p>
その他のコスト縮減の取組
<p>・施工にあたっては、建設発生土の再利用や再生材の使用を行っていく。</p>

7 対応方針案

総合評価	<p>本事業により、調布保谷線と接続する新たなネットワークが形成され、所沢街道の交通の円滑化や北原交差点の渋滞緩和が図られるとともに、地域の安全性、利便性や防災性の向上の効果が期待できる。</p> <p>中止の場合は、事業効果を発現できないだけでなく、これまでの投資に見合った整備効果も得られなくなる。</p>
対応方針案	継続